

新潟県

平成2年

公民館月報

2月
第444号

新春特集 いま、世界の中の日本(下)

NHK解説委員 田畑彦右衛門



矢部友衛「習作」
1920年油彩・キャンバス
73.0×53.0

新潟県美術博物館所蔵

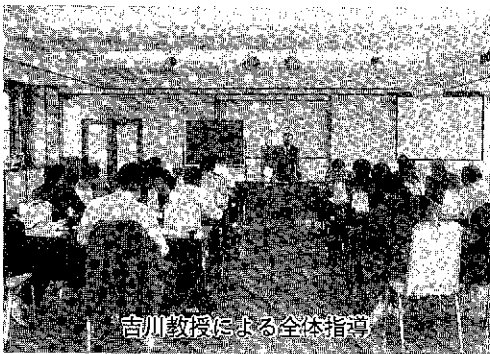
矢部友衛(1892~1981)は村上市出身の画家。大正中期に渡仏、わが国美術界にキュビズム(立体主義)を最初に紹介した画家として記憶される。人体を基本的な形に還元し再構成を試みた「習作」は矢部の立体派志向から生まれた作品。部分的に描写の名残りを残す接表的な画面であるが、大正期の日本人画家の立体主義理解度を示す作例として美術史的にも貴重な作品である。

ユニークな研修方法が好評

公民館職員研修終る



平成元年度県公民館職員研修



吉川教授による全体指導

昨平成元年十一月十四・十五日の二日間にわたり、北魚沼郡川口町「サン・ローラ川口」(新潟建設労働者福祉センター)を会場に、本会主催の公民館職員研修が実施された。

受講者は二十一名と、過去二か年の研修会に比して少数ではあったが、それだけに、濃密な研修が実施され、ユニークな研修内容・方法ともども好評を博して終了した。

この研修 えるため、本会の主催事業としては、公民館現場の強化、昭和三十二年(昭和六十二年)度から実施してきたものである。

<表1>部会コース

コース	取り上げる内容	講師
1 集会・行事の持ち方とその問題	・年中行事・文化祭や公民館まつり・スポーツの大会等の行事・講演会等の開催計画と問題について	関
2 集会学習の問題	・学級・講座等に関する企画・運営等の問題について	徳岡
3 団体・グループ育成の問題	・地域団体・青年団・地域婦人会・自主グループ・ボランティア等の育成や、関わり方と問題について	伊州
4 管理・事務についての問題	・施設提供・施設運営・予算・職員研修・勤務形態・公民館運営審議会等の問題について	田村
全体	吉川教授による全体指導 冒頭講義=公民館職員との在り方と当研修会に期待 部会研修=各部会巡回指導 集約講義=部会報告を基にしたまとめの講義	

ねらいとするところは、経験年数二年以上の職員に対して、実務をおおしての問題点究明に当たることにおき、四部会に分かれてのテーマ別研修が特色となっている。ちなみに、今年度のテーマは表1に示したとおりである。各部会五名程度のため、受講者相互の意思の疎通が図られ、加えて指導講師も部会ごとに担当されていたため、研修の内容を深く掘りさげることができ、充実した研修にすることができた。

なお、この研修は当県公連ならではのユニークな方法によるものであることを自負しているが、その特色は次のとおりである。

- (1) 公民館職員のみを対象として
- (2) 受講者は、あらかじめレポートを提出し、予習をして参加する方式のため、問題意識も鮮明で、研修意欲を旺盛にして参加できること。
- (3) 主任講師の新潟大学吉川弘教授からは、演習に臨むための事前講義・演習中の巡回指導・演習後の総括と徹底した指導を受けるという受講者を主体とした方式である。

しかし、事務当局では、そのことと裏腹に、受講者数が年々減少していることに対して頭をかかえているのも事実である。宿泊研修に対する予算面からの困難性、研修に対する情報提供の不足などが考えられるが、公民館長へのこの種の研修の重要性に関する認識の更改が必要であるという研修専門委員諸氏の見解もあった。来年度もこの研修を重点事業として継続することになると思われるので、受講者増についての問題に取り組む必要がある。

館長の認識の更改を

研修専門委員会

平成二年一月十九日、新潟市中央公民館を会場に、第三回研修専門委員会が開かれ、公民館職員研修の反省が行なわれた。その反省点は次のとおりである。

(1) レポートの事前提出方式は、参加意識・問題意識を高め、効果は大きかった。

(2) 内容を欲張らなかつたため、じっくりと内容を掘り下げることができた。

(3) 体制整備の部会を新設した

が、百館百様の公民館でありながら問題点は共通し、体制整備の重要性が認識された。

(4) 仲間との話しあいによって、問題の共通性を知り、仲間意識を深めることができ、宿泊研修の長所が際立っていた。

以上のことから明年度も同形式の職員研修を実施する必要のあることが指摘された。

また、研修受講者数をふやす

決め手は、各公民館長から当研



主任講師の総括反省

修の効率の高い点について認識の更改を得る必要があると指摘されていた。

辛口

わが国は、戦後四十余年を経過し、世界一の長寿国、あるいは、経済大国といわれ

公民館に期待する

山北町町長 板垣 実

置き努力したことが特色であります。

この社会教育の推進に果たした公民館の役割は非常に大きいものがあります。物資不足

の豊かな国となりまして、物の豊かさもさることながら、心の豊かさも求められています。同時に自己中心より、お互いに協調しあえ

ができましたのは、日本の中で、公民館の館も本々の教育レベルの高さなく、青空公民館として、各集落に出かけて努力していた先輩たちの姿を思い出します。今、わが国は、物資

る人づくりが大切であると思えます。

その中で、生涯教育が大きくクローズアップされてきました。

私は、生涯教育の推進について、戦後長い間、わが国の社会教育に尽した経験ある公民館に対し大きな期待を寄せるものであります。

(県公振連 理事)



来館者だけの

公民館活動でよいのか

第四の今日的課題は「来館する住民だけの公民館活動でよいのか。」ということである。

かつては青空公民館、看板公民館などと言われた時代も長かった公民館だが、国庫補助金の増額等もあって、最近の公民館施設の整備充実は誠にめざましいものがある。

公民館の施設整備が着実に進むにつれて、利用する住民も年毎に増えてきていることは誠に喜ばしいことではあるが、一方、公民館の学習活動に参加する住民の固定化が課題ともなっている。

共働きの増加等で集合学習活動が難しくなってきた。現在の公民館に出来ない、また来られない住民への公民館活動を、どのように進めるかは公民館の今日的課題と言えぬのではないだろうか。

○

公民館の学習活動に参加する住民が固定化してきた理由はいろいろと考えられるが、公民館サイドの理由を考えてみると、第二の課題として「公民館の学習活動は学習ゴッコではない

続公民館日記(9)

「この頃は学級や講座の開講案内を広報しても、なかなか受講生が集まらない。」「学級や講座は開講したが、学習日に果して何人の受講生が集まってくれるか心配だ。」などという声が聞かれる昨今である。

住民の生活と地域の実態がいちぢるしく変化してきている現在、学級、講座等の学習内容と学習方法をそれに対応させようと思わず、いたずらに「人が集まらない。」「人を集めるにはどうしたらよいか。」などとどいていっているのでは、住民の生活と地域に根ざした公民館活動などとは言えないのではないだろうか。

(柏崎市中央公民館 元事務長・徳間助夫)

三、地域社会の充実と生涯学習

地域の開発というものは、その地域に住んでいる人たちが、豊かになり幸せになるために開発するので、思いもよらない大きな力によって、自分たちがそこから出ていかなければならないようになり、これは、さりと、考え直さなければならぬこと、考え直さなければならぬこと、事態もあるんじゃないか、そんな気もするわけなんです。もう湯沢は東京都湯沢町というくらいです。確かに便利になりました。その点では大変有利

の日本(下)

彦右衛門

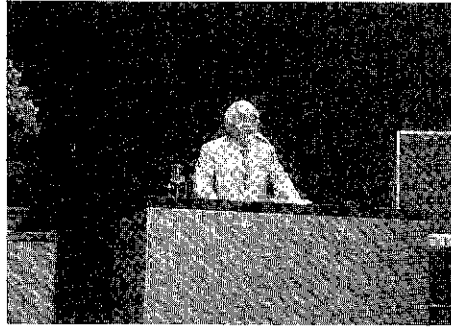


田畑 氏

けるるを紹
おみをは
7月7日)に
て一部要旨
字・語意の誤り

な条件であるわけですが、少なくとも開発を、地元の側で最初で地元の発展、そして、より住みやすい、より豊かな地域社会にしたいという気持ちが強かったと思うのですが、東京の人に占領され地元の人はそこから出ていかななくてはならない……というようになり、一体何んのための開発だったのかということになります。やはり開発というものは、何よりも住民の意志を、開発に先立って決定しなければいけない。その意味において私は、地域の活動における住民の意志のまとまり、コミュニティづくりということが益々大事になってくるだろうと感じるわけです。公民館の皆さんの今日までのご努力の上に立って更に網を広げ、いろんな角度から、みんなが利用し、お互いに学習しあえるような工夫をしていかなければいけないと思います。私も「あしたの日本を創る協会」というところで「古里づくり賞」というのを毎年やらせていただいています。各地で地元の方々の活動のレポートを読ませていただき、評価をしているわけですが、一生懸命やっているところ、やはり、公民館を拠点にし

て活動している人たちです。それは、主婦の皆さんが、土地の料理を見直すというような文化的な教養活動を含めてやっていらっしゃるようです。有名なのは大分県由布院町の公民館を中心とした映画祭とか、宮城県の中新田町のパッパホールですか、聞いただけですぐにユニークだと分かるものもあれば、地道に主婦のみなさ



しゃるんですが、単にお年寄りを慰めるという視点でやっているのではありません。やがて自分たちも必ず歳をとる、歳をとったときに不自由をしないために、どういう着物を作ったらいいかという、そういう目で、今のお年寄りに奉仕しているんです。もう一つは、そうした地域の意見を集約して、その歴史とか風土に基づいたいろんなことを築いていくということがございます。越後の雪というのは大変苦痛だと思います。これだけ日本中が開発が進んで、満遍無く同じようなものを食べ、同じようなものを着、同じような家に住んでいても、決定的に違うところは、雪があるか無いかということ、雪の無いところの人は、雪の有るところの人に冥加金として、それだけの税金を納めてもいいくらいだと、方々へ行って言うわけなんです、それほどに雪との戦いは大変だろうと思います。しかし、その大変な中で、町中一斉に雪下ろしをする、というふうにして培われた共同体意識というものはこれはまた強固なものがあります。苦勞した分だけ地元の結びつきが強固になっていきます。さて、四十年を迎えまして、新しいニーズが出てきました。

行政改革の中で、見直した方がいいと思うものが沢山あります。保健所は、伝染病が少なくなった今日、もう役割は終わってはいないかという議論があります。しかし、地域の保健、特に病気になるから医療費がうんとかかるような医療体制よりも、みんな病気がからないための予防、健康づくりというところで、もう一度保健所を見直さねばならないということ。伝染病がなくなったということ。保健所の見直しが指摘されていると同じように、公民館も又、数年前までは見直した方がいいのではないかという議論がございました。しかし、いま私がある、申しましたように、国際社会の中で地域づくり、或いは、東京・地方の二極化をこれ以上広げないように、そして全国をバランスよく、みんなが定住し、歴史と風土を生かしていくために、公民館の新しい役割が出てきました。もちろん、そのためには、これまでの制度にあぐらをかいているばかりではいけません。第一線で、皆さんが午前中に一生懸命に議論していられたように、いろいろの積み重ねの中からもっと目を広げて、どういうネットワークを作ればいいのか、公民館と保健所が一緒にやって予防をやっ

新春いま、世界中 NHK解説委員 田畑

第40回新潟県公民館大会(平成元年
記念講演の内容を、講師の了解を得
て録音テープ再生のため、用
意して編集部の責任である。

もいいのではないか、いろん
な意味で再編成が必要です。そ
ういう新しい地域を作っていく
というところで、役割を見直す、
そして、地域の中核になってい
ただく。そのためには、この四
十年のノウハウの積み重ねが必
ずモノをいう筈だと思います。

四、次の世代への メッセージ

まもなく21世紀を迎えるわけ
であります、そのことを考え
ますと、次の時代をつくる今の
若い人たちに、どういいうメッ
セージをのこしていったらいい
かということ、真剣に考えな

いと間に合わなくなると思いま
す。例えば、最近の学生は変わっ
てきました。特に今年には好景気
で、いろんな注文さえつけなけ
れば就職の心配はないといわれ
ています。だからのんびりして
います。そのことはいいのです
が、気になることがあります。
どうも最近就職するについて、
学生たちが嫌がるものが増えて
きています。中でも「三き」と
いって、きつい・きたない・き
けん、な仕事を嫌い、みんな楽
なしごとで就きたいというそう
です。そういう会社で人があ
る。しかし、よく考えてみます
と、いわゆるハードな仕事・汚
い仕事・危険な仕事というもの
をやる人がいなければこの社会
はもたせません。いま、首都圏の
建設現場では、深刻な労働力不
足です。どうしても外国人労働
者に頼らざるを得ないのです。
このまま行きますと、例えば看護
婦という仕事を若いお嬢さん
たちがだんだんやらなくなるの
ではないか。これは、医療の面
からも、高齢化社会という面か
らみても、大変なピンチです。
このまま行って若いお嬢さんた
ちが看護婦をやらないとなる
と、いまに病院は外国の女性ば
かりになってしまいます。日本
人が嫌がる仕事があえていくと
いうのはどうみても健康な社会

というわけにはいきません。
円高は、国内で高い労賃をは
らってモノを作るよりも東南ア
シアの方が安くできるというの
でどんどん東南アジアに工場を
移しています。或は、自動車の
本家本元のアメリカで、向こう
の労働者を確保して自動車を
造っています。また、円高円安
などのマネーゲームに熱中して



いる金融の現状なども含めて、
次の世代に何を伝えるか、いろ
んな意味で空洞化ということを
防いでおかねばなりません。
外国に工場が出ていきます。
技術が出ていきます。お金が出
ていきます。心が出ていきます。
そして、後に残るのは大きな穴
が空いているだけ。そして、豊
かに育った今の子供たちが大人
になった時、基礎的な技術とい
うものを身につけていない大人
が一杯溢れている社会というの
が一番心配なんです。ですから、
いまのうちに伝えておかなけれ
ばならない基本的な技術、女性
であれば生活の技術というもの
を、ご当地であれば越後の雪の
中から生まれた暮らしの知恵と
いうものを、しっかりと次の世
代に文化として伝えておかなけ
ればいけないと思うのでありま
す。

五、この豊かな社会を どう維持するか

いまの子供たちは、豊かな時
代に育ちましたから、心根がや
さしい。人を傷つけることも、
自分が傷つくことも嫌がりま
す。それだけ優しいのですが、
残念ながら、ご飯を食べられない
子供がこの地球上にいるとい
うことがピンとこないのです。
可愛そうだという気持ちをもつ
が、援助するという気持ちには
なれない。援助というのは、相
手の立場に立って、相手が何を
求めているかを推察して求めて
いるものを用意してやる、しか
も無償でやるということに援
助の本当の意味があると思いま
す。仏教で言えば、布施の心で
あります。金持ちになったから
恵んでやるのではなくて、人の
役に立ちたいということが、実
は一番尊い、それが、この豊か
な時代における私達共通の目標
ではないかと思えます。
私の故郷の松尾芭蕉は、今の
層になおしますと、今口あたり
は、山形県尾花沢の鈴木清風の
屋敷にとう留しているころでは
ないかと申し上げましたが、そ
の松尾芭蕉が奥の細道の中で鈴
木清風さんのことをこういふ
うに書いています。
「尾花沢に清風という者を尋
ぬ。かれは富めるものなれども
志いやしからず。都にも折々か
よいて、さすがに旅の情をも知
りたれば、日ごろとどめて、長
途いたはり、さまざまにもてな
し侍る」とある。「彼は富める者
なれど志賤しからず」(ベニバナ
で巨万の富を築いた)というこ
とは大変なことだと思います。
いまの日本が世界の人々から評
価される方向は、この鈴木清風
のような心でなければならぬ
と思えます。こういう評価を次
の時代に築くことが目標でなけ
ればならないと思えます。
これまでも、皆さんが四十年
間一生懸命やってくださいまし
た。あらためて今日までのご努
力に敬意を表しますとともに、
今後ますます私どもとの協力を
制を深めていただきたいと思います。
(完)

公民館職員研修

10 行感想文

全受講者の感想文の中から10行程度のひと言を紹介する。(アイウエオ順)

新潟市中央区公民館

青池真佐子

実はあまり期待はしていません。しかし、講義で仕事からの頭のきりかえをはかり、午後からの部会の話し合いはあっという間に時間が過ぎてしまっ

新潟市北地区公民館

池田 忠

研修ぎらいの私にとつて憂うつだなあと感じて参加しましたが、演習では各地の職員が、わざわざ自分の思っていることをぶつつけ合い、終わるころには、皆が昔からの友人であるが

和島村公民館

阿部 一雄

始めてこの研修会に参加させて頂き、参加者の多くの皆さんが同じ様な悩みを持っている事に驚きました。

栃尾市公民館

猪俣 茂俊

第一部に属しその中で話し合いの主たるものは参加者の減少が第一に上げられましたがこの問題は、どの公民館でも同じようでした。

豊栄市中央公民館

五十嵐誠一

同じ仕事をしている仲間として、お互いの口頃の悩みや困っていることを知り、又それについて

の解決法などをざっくばらんに出し合い、大変よかったです。吉川先生からの全体を通しての指導はとても分かりやすく実践的で、ほんとうにこの研修会に参加させていただき幸運でした。

高柳町公民館

大倉紀世美

くでは——という気持を新たにいたしました。この公民館でも共通する運営問題があり、すぐに部会コースでも活発な議論になり、助言



休憩時 しばしの談笑

者の経験を通したお話を聞きまして、とても勉強になりました。

そして、同じ問題を持つ公民館職員として、このような研修はこれからも必要だと感じました。大変ありがとうございました。

村上市中央公民館

大滝 慈光

「公民館の職員は実務に弱い。」と言われる。今回は予算・管理運営方法についての研修ができたことが大きな収穫であった。他市町村も村上市と同じような悩みを抱えていた。長時間にわたる意見交換ができ、とても満足した。オールラウンドプレイヤーとしての公民館職員を目指し、これからも研鑽を積んでいきたい。

与板町公民館

大平 和正

今回の分科会及び全体会を通して共通事項として「人あつかい」ということがあります。米年は心理学的な専門講師を招いて人に接する時のノウハウなどについての研修を加えていたならば一層おもしろいものになるのではないかと思います。

新発田市公民館

川崎 俊二

今回の研修成果をどれだけ現場で活用できるか心配です。新潟市中央公民館 大矢 克巳

公民館の方々の色々な意見が聞けて、参考になりました。

研修として取り上げてほしいものとして、公開授業のような形で、企画から実施までを、実際の事業を取り上げ、見学なども入れてやってみるのもおもしろいと思いますがいかがでしょうか。

糸魚川市中央公民館

小野 孝

「住民の学習要求を把握するにはどうしたらよいか」という議題を話し合っている時に吉川先生がおいでになって新潟市の西地区公民館の運営審議会の活躍のお話しを伺うことができた。住民とのパイプ役である運営の活用方法をお聞きすることができた。いへん参考になりました。

糸魚川市上早川地区公民館

恩田 定信

私達の班は3班だったがその指導講師は伊田先生、彼女も私達と同じ立場で、講師というより同じ研修生というかたちで接していただき、話しももりあがり中身の深い本音の話しができ、私にとつては大変良い勉強をさせていただきました。

新発田市公民館

川崎 俊二

今日の発表でどなたかがおっしゃってましたが、その地区地区によって、名前は同じ「公民館」ではあっても、内容は多種多様で、正直言ってオドロキました。そういった意味では、大変参考になったように思います。

また、この川口町へ来たのは、初めてですが、非常に良い宿泊場所だと思います。

上越市立公民館

楠 征幸

第三部会で、団体・グループ

の育成の問題を中心に話し合った。公民館職員として、まだまだ、研修しなければならぬと思われました。本当に為になる研修会です。日程についても、もう少し日をかけていただきたいし、それぞれの講師との意見交換の時間を多く取っていただきたい。

長岡市中央公民館 佐野 迪則
初めて会ったのに、気軽に話しかけられる——そんな研修の場、1泊2日の短時間に多数の方と仲間づくりができたことが最高の喜び。
集い、学び、結ぶことができ

近くの山なみ、青く光る川面
食事はよし、部屋も落ちついた
気持で休むことができた。

十日町市中条地区公民館

須藤 剛浩

日頃の仕事での悩みなどを話し合える研修であり、また話し合いながらお互いに助言しあい改善に努力する意義のある研修でした。これは職員としてだけでなく、講座の運営方法にも通じるものだと思います。

今後の事業の中で、今回の研修で勉強したことを思い出しながら、人を大切に、相手の立場、レベルに立ったものの見方、考え方です。仕事をしたいと思

新潟市東地区公民館

滝沢 智子

部会の方は、他市町村の公民館の運営の仕方・特色を聞かせて頂くことができ、大変参考になりました。その違いの中でも悩んでいる問題は一緒のようです。夜も部会で二次会を持った。皆さんと親しくなれて、それだけでも得るものが大きかったです。

柏崎市中央公民館

鳥島 一弘

一般的な研修会スタイルつまり、講演、与えられたテーマでの分科会・研究協議とは一味も二味も違い、学習・講座のテーマと共通する課題解決へ向けての公民館職員研修であった。

研修会場も環境が良く、ゆったりできる為、来以降もこの会場で、宿泊研修形式で実施していただきたい。
糸魚川市大和川公民館

中谷万里子

今年の受講者は二十一名で昨年より少ないということでしたが、各部会五、六名でしたので和気あいあいとグループ討議が進み、時間の経つのが早く、あっという間に演習が終ってしまいました。講師の先生方、受講者の各公民館における立場等、異なっていますが、研修時や情報交換時にはざっくばらんな雰囲気

気で楽しく時間を過ごさせていただきました。

川西町公民館 保坂 久代

一つに残ったことがありますが、それは、同じ部会の方が言われたのですが「公民館は面白い。人と人とのつながりがある。だから少しでも前進したい。前進したいと思うと家庭を犠牲にしてしまふ……」と。

家庭を犠牲にしてまでやろうとしていく公民館職員がいる限り、公民館は永遠だと思えます。

五泉市公民館 皆川 秀男

今回の研修は参加人数が少ないとのことですが、分科会は6名という人数でした。このくらいの人数で良いと思えます。また参加市町村が少ないよう

であります。研修に参加するかどうかは、館長の権限でどうにでもなることですので、連合会の方からも各市町村の館長に強くお願いした方が良くと思えます。

おわび

先月号の本欄で、巻町立西小学校とあるのは北小学校の誤りでした。おわびして訂正します。

(編集部)



豊栄市中央公民館主任

五十嵐誠一氏(41歳)

昨年四月、中央公民館に異動して二年目。社会教育畑は初めての経験で、主に芸術・文化を担当。「忙しくて、なかなか休みが取れないんです。でも事業を行って、参加者から喜ばれた時は嬉しい。」と話してくれました。酒は全くの下戸のため、飲む機会が多い公民館事業、もつ



ばら真心でお願いしているところと。その彼も、

素顔 拝見

新発田市公民館主事

川崎俊二氏(38歳)

税務、商工といった事務畑から百八十度転換し、公民館に勤務して4年目。芸術・文化部門を担当。「人をまとめることの難しさを痛感しています。無事一つの仕事が終わったとき安堵感を覚えます。」と言う。同じ公民館勤務者として、まったく同感。気さくで親しみやすい人柄の彼とはテニス仲間、私とはいい勝負?。役所の軟庭クラブではプレーイングマネージャーとして活躍しているフアイトマンの川崎さん。(実は彼、アフター

テニスの方が好きなんです(よ)。酒をこよなく愛し仲間と談笑することが大好き人間。家庭では二児の良き父親であり、そして恐妻家。



「共働きの嫁さんには、いつもすまないと思っている。たまにはゆっくりサービスをしてやりたいですね。」と大きな目を細めていた。仕事、家庭、友達を大事にする彼を再発見した。

——豊栄市中央公民館主任

五十嵐誠一(記)



ぼくらのカミクラ No.9号発行

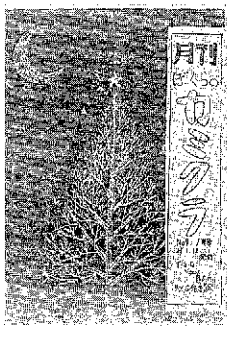
十日町市青年学級広報委員会

毎月贈られてくる館報の中に手書きの機関紙「ぼくらのカミクラ」がある。

今は県内唯一となった青年学級(青振法に基づく)もので、開設以来41年の歴史と伝統を誇る(の)の学級生が作成している月刊紙。

B5判、10頁、手書きならでの自由なレイアウトで、青年らしい奔放さが特色になっている。なお、カミクラのネーミングは仲間との広報委員長の名字によるとか、まともりの象徴でもあろう。

この種の情報紙が広く県内外の青年団体やグループ相互の交換交流、ひいては、友情や連帯の絆づくりになってくれればと願うことしきり。関心ある向きは次へ連絡されたい。
〒948 十日町市辰甲七三〇一



なじらね

第二集刊行

新潟・生活とことばの会

新潟市中央公民館の利用団体の一つに「新潟・生活のことばの会」がある。このほど「なじらね」第二集を刊行した。

昭和53年に結成したこのサークルは、新潟弁を愛する者の集まりで、くらしに直に結びつき、

生きている言葉を見つめ、とらえようとする会である。会員は目下18人。
「本書に興味を持たれた方は、気軽にお願いください。また、文章を事務局にお送り下さるだけでもけっこうです」と言っている。

(B5判、144頁、平成元年十月一日発行、頒二千円送料コミ、小為替で左記へ申しこまれたい)



あとがき

知人から二冊の本が贈られてきた。「おれのまんが道」I・IIである。

当代の人気漫画家四十人の、ヒット作を生み出すまでの漫画への取り組みについて、インタビュー形式で書かれている。漫画に対する愛と情熱について、中年の実力者は実力者らしい年輪が、若い人は若い人なりの夢や挫折などが綴られていて興味深い。また、本県出身者が五人も登場しているのは驚いた。漫画家を志望する若い人たちが

アンギンと釜神さま

滝沢秀一著

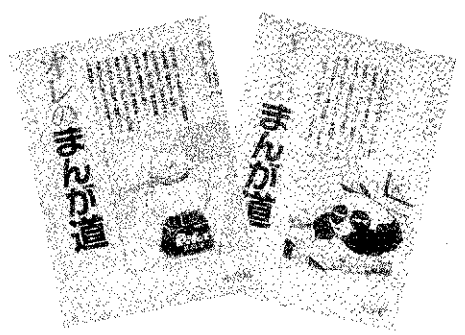
国書刊行会



本県公民館界の先達として知られる津南町の滝沢秀一氏が、ライフワークとして進めてこられた秋山郷の民俗を伝える研究誌「アンギンと釜神さま」をこの程刊行された。

文化庁主任調査官天野武氏は「いわゆる民俗と習俗とを一体不離のものであるとの民俗観に立ち、日本を代表する山村の典型地である秋山郷の特色を見事にとらえている。釜神さま」越後のアンギン」の二論考は、本書の庄巻であり滝沢さんの真骨頂を見る思いがする。また、冒頭の「民具と歩いた道」「秋山のくらしと民具」の章には、心血を注ぎ秋山郷の民俗解明に努めてきた著者の心情と造詣の深さがうかがえる」と絶賛している。(A5判、288頁、平成2年1月25日発行、定価二千五百円(税込)お求めは最寄りの書店へ)

〒950新潟市上中三三三―五
本井晴信方



にはかっこうの読みものと思われる。公民館の図書室に備えたいかが。
(小学館発行、それぞれA5判Iは200頁平成元年11月20日発行、定価980円。IIは202頁、平成2年1月20日発行、定価980円、最寄りの書店で)

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【電話・新潟(025)224-6073】

発行人 会長 木下清一

編集人 事務局長 上村捨二郎
【定価1部120円 年共1,440円】